

胃カメラを受けられる方へ

《飲食について》

- ・ 検査前日の夕食は午後8時(遅くとも9時)までに済ませ、当日の朝食は食べずにお越し下さい。
当日の朝8時半までお茶・水のみコップ1杯(200ccほど)飲水可です。
- ・ 人間ドックの方、腹部エコーがある方は、当日は絶飲食(食事もお茶・水も摂らない)でお越し下さい。

《内服について》

- ・ 検査前後の内服については、主治医にご確認下さい。
- ・ 抗凝固剤(ワーファリン、バイアスピリン等)をお飲みの方は、
休薬の必要の有無と検査後の服用方法について主治医へご確認下さい。
- ・ 高血圧にて治療中の方は、健診当日の朝 7 時まで、朝分の血圧のお薬のみ内服をお願いいたします。

※当日、血圧が著しく高い場合は胃カメラを受けて頂くことが
できない場合もございますのでご了承ください。

- ・ 糖尿病にて治療中の方は、健診当日の朝、血糖降下薬を内服しないで下さい。
インスリンを使用している方は、検査前後の指示を主治医へご確認下さい。

《組織検査について》

検査医師の判断で組織検査を追加する場合があります。その場合、病理診断料が別途追加となります。

胃カメラの部分麻酔と鎮静剤について

胃カメラを実施する前は、のどや鼻に『部分麻酔』を全員行います。
ほとんどの方が部分麻酔をすることで苦痛が和らぎ安全に胃カメラができます。
しかし、部分麻酔をしても胃カメラがのどを通る際に咳き込むことや吐き戻す反応が起こることがあります。

初めて胃カメラを実施する方は通常通り鎮静剤を使用しない方法
をおすすめします。

《鎮静剤を使用する(おすすめする)方》

以前、胃カメラを実施された際、医師から鎮静剤を使用したほうが安全に実施できると判断された場合。

※基本、のどや鼻の部分麻酔のみで安全に行うことができます。
胃カメラで鎮静剤を使用される方は1割以下です。

※当院で初めて鎮静剤をご希望の方は、お電話でご相談ください。

《鎮静剤の特徴》

- ・ 神経の興奮をしずめ、のどの苦痛を和らげます。
- ・ 眠り薬ではありませんが、意識がなくなり眠ってしまう人もいます。

《鎮静剤使用についての注意点》

- ・ 当日は自動車・バイク・自転車の運転はお控えいただきます。
公共交通機関等をご利用ください。
- ・ おおむね午前中に終了しますが、午後からの勤務は通常お控えいただきます。
- ・ 副作用(呼吸抑制、血圧低下、不整脈、健忘など)が起こる可能性があります。